

2011 年度 第 3 回水工学委員会幹事会 議事録

日時： 2011 年 11 月 7 日（水）12:00～13:00

場所： 土木学会講堂

出席者： 寶馨（委員長）、道奥康治（副委員長）、篠田成郎（幹事長）、大石哲（編集幹事長）、浅沼順、天野邦彦、石平博、泉典洋、今村正裕、鬼束幸樹、門田章宏、川池健司、神田学、清水義彦、関根正人、立川康人、田中規夫、田中昌宏、知花武佳、戸田祐嗣、富永晃宏、中北英一、中津川誠、藤田一郎、横山勝英【敬称略】

議題：

寶委員長からの挨拶の後、以下の事項について審議が行われた。

《報告事項》

1. 全国大会研究討論会（2011・愛媛大学）について（立川康人 委員）

- ・ 全国大会初日の夕方に「水理水文解析ソフトウェア統合型共通基盤の活用に向けて」が開催され、会場の容量からしておおよそ 120 名ほどの参加者があったと思われる。
- ・ 古米先生の水質モデルが統合された旨、CommonMP から各種データベースに直接アクセスできるようになった旨、報告があった。
- ・ 今後はダムや遊水池などの洪水制御施設の取り込み、災害時の迅速な対策のツールにすることが期待されている。
- ・ 次回は年度末をめどに各自が開発したアプリケーションを照らし合わせ、統合に向けた会議を開く予定。
- ・ 関連して、流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会（福岡委員長）の情報交換会を 12 月中旬から年度末に開催予定であることも立川委員より紹介された。東日本大震災を受けて実施される法制度の改正などを踏まえ、議論を行う予定。参加希望の方は立川委員まで。

2. 各部会、小委員会の活動報告（報告のある場合に限る）

a) 水文部会（神田学 部会長）

- ・ 報告事項なし

b) 基礎水理部会（富永晃宏 部会長）

- ・ 報告事項なし

c) 環境水理部会（今村正裕 部会員）

- ・ 今村部会員より第二回流域圏シンポジウムを 12 月 15 日 13:30～18:00 に京都大学東京オフィス会議室で開催する旨紹介があった。タイトルは「流域圏の物質輸送に関する実態評価の現状と課題～陸域から内湾（湖沼）までを俯瞰的に理解する～第二回：有機物・栄養塩動態を通して～」
- ・ 環境水理部会では、教科書作成 WG（リーダー二瓶委員）、流域圏 WG（リーダー赤松委員）という二つのワーキンググループを新規に立ち上げる予定であることが報告された。
- ・ 沿環連対応を環境水理部会で担当し、環境水理部会の内規を策定中である旨報告された。

d) 河川部会（泉典洋 部会長）

- ・ 来年度の河川技術に関するシンポジウム（6 月 21 日 22 日@東京大学農学部弥生講堂）に関する会告を土木学会誌 12 月号に掲載する予定。新潟・福島豪雨災害を取り扱う予定。特定課題は河川堤防の安全性評価。

e) 地球環境水理学小委員会

- ・ 報告事項なし

f) 東南アジア河川流域研究小委員会（篠田成郎 幹事長）

- ・ 委員長が首都大東京/河村明 教授になった旨、篠田幹事長より紹介があった。

g) ISO/TC113 小委員会

- ・ 報告事項なし

h) 流量観測技術高度化研究小委員会

- ・ 報告事項なし

i) JHHE 編集小委員会 (川池健司 小委員会幹事)

- ・ 今月中に, Vol.29. No.1 10 編, No.2 は 3 編とやや少なめ. これらが掲載予定. 現在は 10 編が査読中で, この数は例年通りである旨報告された.

3. その他

a) 土木学会功績賞の推薦について (篠田成郎 幹事長)

- ・ 基本的に執行部で数名を推薦する予定であるものの, 委員からの推薦を受けつつ最終決定とするため, 委員長名で推薦すべき人がいれば連絡していただくよう委員長から依頼があった.

b) 土木学会英文論文集発刊について (関根正人 幹事)

- ・ 2013 年 1 月以降に J-Stage 上に発刊予定であり, これに向けて 2012 年 4 月以降に論文募集を開始する旨, 報告があった. 当面は Selected Paper (現在査読中の水工学論文の中から「JHHE に推薦する」ことに決定した論文を中心に土木学会論文集 B1, B2, B3 部門の中で推薦されたものを加える) が中心. これに一般投稿論文も受け付けていく. なお, 第一巻にはこれ以外に東日本大震災関連の論文を掲載予定.
- ・ English proof reading を外注し, その契約上, MS-Word で投稿することがルールとなる予定. 投稿料は当面無料.
- ・ B 部門で一つの Journal を発刊することになるが, 海岸工学, 海洋開発の両委員会からの論文を受け付けつつも水工学委員会からの論文が主体となる.
- ・ JHHE の編集メンバーがそのまま加わり, スムーズな移行をはかる. 土木学会論文集 B 部門合同小委員会との連携が必要.
- ・ 通常号への投稿を積極的にしてほしい旨, 査読をなるべく引き受けていただきたい旨, 依頼があった.
- ・ MS-Word でなければならないというのはおかしいではないかという意見があったものの, English proof reading の契約上困難であるとの回答がなされた.
- ・ 自己負担で別途 English proof reading を得て投稿は可能かと言うことに関しては, まだ審議されておらず, 今後検討予定.
- ・ TeX を MS-Word に変換することは可能なものの, コメントが MS-Word で返ってくるため, やはり MS-Word でないと困難との回答がなされた.
- ・ 新しい J-Stage も MS-Word でないと受け付けられなくなっているかとの質問があったが, こちらは今でも PDF でも受け付けられる旨回答があった.

《協議事項》

1. 第 56 回水工学講演会の開催日程・開催行事 (愛媛大学)

a) 河川災害シンポジウム (3 月 6 日) (篠田成郎 幹事長)

- ・ 代理で篠田幹事長より進捗状況の報告がなされた. 実施方針は, A 案 (東日本大震災・台風 12 号・タイ水害の災害調査結果の発表会 (従来方式)) または B 案 (東日本大震災にクローズアップしたシンポジウム) の二案で検討を進めており, 11 月に決定, 12 月中旬に講演者に原稿依頼の予定.

b) アゲールシンポジウム (3 月 6 日) (中北英一 委員)

- ・ 内容は領域気候モデル (RCM), すなわち細かい時空間スケールにフォーカスした解析に関する最新の状況についてお話いただく予定. 温暖化評価に求められている要素の認識を共有し, 水工学論文集への投稿論文の質を向上させるのが狙い. 講演者は現在交渉中.

c) 特別講演会 (3 月 7 日) (門田章宏 幹事)

- ・ 愛媛大学防災情報研究センター副センター長の板屋英治先生, 西日本科学技術研究所代表取締役の福留脩文氏のお二方より内諾いただき, 謝金と交通費の支出依頼があったが, 現在執行部としては支出予定である旨回答があった. 演題については問い合わせ中 (12 月中).

d) 交流会 (3 月 7 日) (門田章宏 幹事)

- ・ 食堂で行う予定. 一般 5,000 円, 学生 2,000 円が通例だが, 学生 1,000 円に値下げする旨提案があった. 参加者が少ないのは値段が原因ではないののではないかと意見も出されたが,

今年度はこれで実施してみることで了承された。

2. その他

- ・ 賞委員長より再度、功績賞の推薦について確認がなされた。

以上